

Chapter3:The Machine in the Ghost

In Joseph P. Forgas, Kipling D. Williams and Simon M. Laham (eds.)

Social Motivation; Conscious and Unconscious processes

Cambridge University Press

Rep.脇本竜太郎¹

本章の構成

0. Introduction

1.Terror Management Theory and Research: An Overview

2.A Dual Component Model of Defensive Responses to Conscious and Unconscious Threat

2-1.Empirical evidence

2-2.The role of affect in terror management processes

3.The Activation of Worldview Defense

4. Conclusion(略)

0. Introduction

◇人間行動は無意識的な恐怖や欲求によって規定されているのか?…心理学における 1 つの大きな論争

◇存在脅威管理理論(Terror Management Theory ; Greenberg, Pyszczynski, & Solomon,1986 ; 以下 TMT と表記)

- ・死の思考が、広範な人間の社会的行動に影響を及ぼすことを主張、支持する多くの知見が得られている(Greenberg, Solomon, & Pyszczynski,1997; Pyszczynski, Solomon, & Greenberg,2003)
- ・死の思考の動機付け効果が、主に主観的感情経験を伴わず、死の思考が意識にない時に生じることが示されている

◇本章の目的

- ・TMT に基づく研究の概観
- ・死の思考によって駆動する動機・認知プロセスの探求
- ・それらプロセスにおいて感情経験の可能性(potential affect)が果たす役割の詳説
- ・本章で呈示する防衛の二過程(意識・非意識)モデルを支持する知見の概観

1.Terror Management Theory and Research: An Overview

◇生存への動機+死の不可避性の知覚→人間独特の存在論的脅威経験の可能性

- ・文化的不安緩衝装置(cultural anxiety buffer)文化的世界観と自尊心)による防衛
文化的世界観：自己の存在の説明，自己価値の基準の提供，適合者への象徴的不死の付与
自尊心：文化的世界観を信奉し，その価値基準を満たすことによって得られる獲得される感覚

¹ 東京大学大学院教育学研究科博士課程 e-mail:wYvern@p.u-tokyo.ac.jp

- ・文化的の不安緩衝装置は、その妥当性を社会的合意によって保障されている、脆いもの(**fragile social constructions**)
 - 緩衝効果を発揮するには、継続的な合意による妥当化(**consensual validation**)が必要。
 - 人間の根源的不安に対する防衛において自尊心と文化的的世界観が果たす重要な役割を考えると、多くの社会的思考や行動がそれらを（妥当性に対する）脅威から維持・防衛することに向けられていると考えられる。・・・文化的の不安緩衝装置の維持防衛という観点から、多くの社会的行動を統合的に説明できる可能性

◇現在では 9 カ国以上で、170 を超える実験が行われている・・・2 つの中心仮説(不安緩衝仮説と存在脅威顕現化仮説)に基づく

□不安緩衝仮説(**anxiety buffer hypothesis**)

- ・ある心理的構成概念が不安を緩衝するのならば、その概念を強化すると個人は脅威に対して不安を感じにくくなる
 - 自尊心を高めると、凄惨な事故の映像を見た後の自己報告や、電気ショックの予期による生理的覚醒、自己の脆弱性の否認傾向が弱くなる(**Greenberg et al.,1992,1993**)
 - 自尊心を高めると、死について考えた後の文化的的世界観の防衛反応、自尊心獲得反応、死の思考の接近可能性の高まりが低減される。
 - 上記のような自尊心による文化的的世界観の防衛反応の低減効果は、異文化の他者が行為者の自尊心に脅威を与える場合には発揮されない。

□存在脅威顕現化仮説(**mortality salience hypothesis**)

- ・ある心理的構成概念が不安を緩衝するのならば、行為者に不安の源を想起させる²と、それら概念の必要性が高まり、それらを支持するものにはより肯定的な反応を、それらに脅威を与えるものには否定的な反応を示すようになる

○文化的的世界観関連反応

- 道徳的規範から逸脱した者へのより苛烈な評価、規範に順じた者へのより好意的評価 (**Resenblatt et al.,1989**)
- 文化を賞賛する者に対するより肯定的な評価、批判する者に対するより否定的評価(**Greenberg et al.,1994**)
- 内集団成員に対するより肯定的な評価、外集団成員に対するより否定的な評価(**Greenberg et al.,1990**)
- 寛容さを重要な価値と見なす人達では、異なる価値観を持つ人たちへの肯定的評価が高まる (**Greenberg et al.,1992**)
- 文化的規範から逸脱した行為を行う時の不快感や困難度の高まり (**Greenberg et al.,1994**)
- 自己に注意を向かせるような刺激(**self-focusing stimuli**)の回避(**Arndt et al.,1999**)
- 自己の態度の社会的合意性を高く見積もる(**Pyszczynski et al.,1996**)
- optimal distinctiveness** の追求(**Simon et al.,1997**)
- ステレオタイプに合致するマイノリティ成員に対するより肯定的な評価、合致しない成員にたいするより否定的評価(**Schimmel et al.,1999**)
- 社会的情報に対する認知的構造適用の増加(**Dechense & Kruglanski, 2004**)
- 蜘蛛恐怖症者の蜘蛛の写真に対する回避反応の増加、強迫性障害者の手洗い行動の増加 (**Strachan et al.,2003**)

○自尊心獲得反応

² 死について考えさせる処理を **mortality salience** 処理, **MS** 処理と言います.

- 運転技術に自信を持っている者の運転技術の誇示(Taubman Ben-Ari et al.,1999)
- 身体に自信を持っている者の、自己概念としての身体の重要度評価の高まり、自信を持っていない者の身体に対するモニタリングの弱まり(Goldenberg et al.,2000)
- 白人の、白人としての誇りを表明する人に対する共感(Greenberg et al.,2001)
- 価値のある募金に対する肯定的評価と募金額の増加(Jonas et al.,2002)
- 肯定的にフレーミングされた集団に対する同一化の強まり、否定的にフレーミングされた集団からの脱同一化の強まり(Dechesne et al.,2000)
- MS 処理後の自己奉仕的な注意は、死後の世界があるという科学的証拠を被験者に示した場合には消失する(Dechesne et al.,未公開)

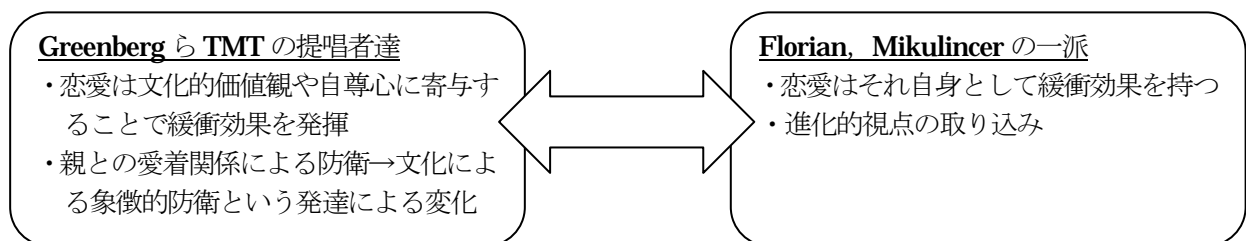
○身体関連反応

- 人間と動物の共通性を強調したエッセイに対するより否定的な評価(Goldenberg et al.,2001)
- 人間の動物性を想起させるような事物に対する嫌悪(disgust)反応の増加(Goldenberg et al.,2001)
- 神経質傾向の強い者また人間と動物の共通性を考えさせられた者の、性交渉の身体的側面に対する評価の低下(Goldenberg et al.,2002)
- 神経質傾向の強い者また人間と動物の共通性を考えさせられた者に性交渉の身体的側面を考えさせると、死の思考の接近可能性が高まる。この反応は、愛情(romantic love)について考えさせると消失。
- 感情的・身体的な浮気(infidelity)に対する、男女それぞれに典型的な反応の強化(Goldenberg et al.,2003)
- MS 処理は魅力的な女性に対する男性の評価を高めるが、その女性が性的に挑発的な格好をしている場合には、評価を低める(Landau et al.,under review)

○恋愛に関する反応 (Mikulincer と Florian を中心とするイスラエルのグループによる)

- MS 処理は親密さ、社会的相互作用への参加とそれに対する楽観的な思考を強める。また、自己の社会的スキルの過剰見積もり、拒絶への不安の低下、関係への投入(commitment)を強める。これらの傾向は特に安定型の愛着スタイルを持つ者で顕著。
- 高自尊心者は MS 処理後に、長期的な関係を築くために恋愛対象選択の基準を下げる
- 恋愛関係や安定型愛着スタイルについて考えさせられた者は、MS 処理後の文化的世界観への防衛反応が弱い
- 愛着不安の強い者は、関係の問題や愛する人との別れについて考えさせると、死の思考の接近可能性が高まる

*恋愛に関する研究の捉え方に関する議論…今後の検討が必要



□MS 処理の特定性

- ・様々な MS 処理の方法で効果が再現されている
 - 自由記述、質問紙、閾下プライミング、映像、葬儀場との物理的距離など
- ・他の不安や不快感情の誘導では MS 処理と同等の効果が見られない

- 歯科不安, 自己覚知, スピーチ不安, 将来への不安, テストでの失敗では **MS** 処理と同じ効果は検出されない.
- **McGregor et al.(2001)** は不確実性で **MS** 処理と類似の反応が示されることを報告
 - しかし, **Chaudhary et al.(2001)** は **McGregor** の処理が死の思考の接近可能性を高めることを報告

◇ここで概観した研究は, 死の不安が一見死とは関係のない様々な社会的行動に影響することを一致して示している.

➤ **James(1890, 1918)**

死=意識的な欲求や願望の “worm at the core”

問題提起:

我々は自己の有限性を知ってはいるが, それは普段は意識されないものである.

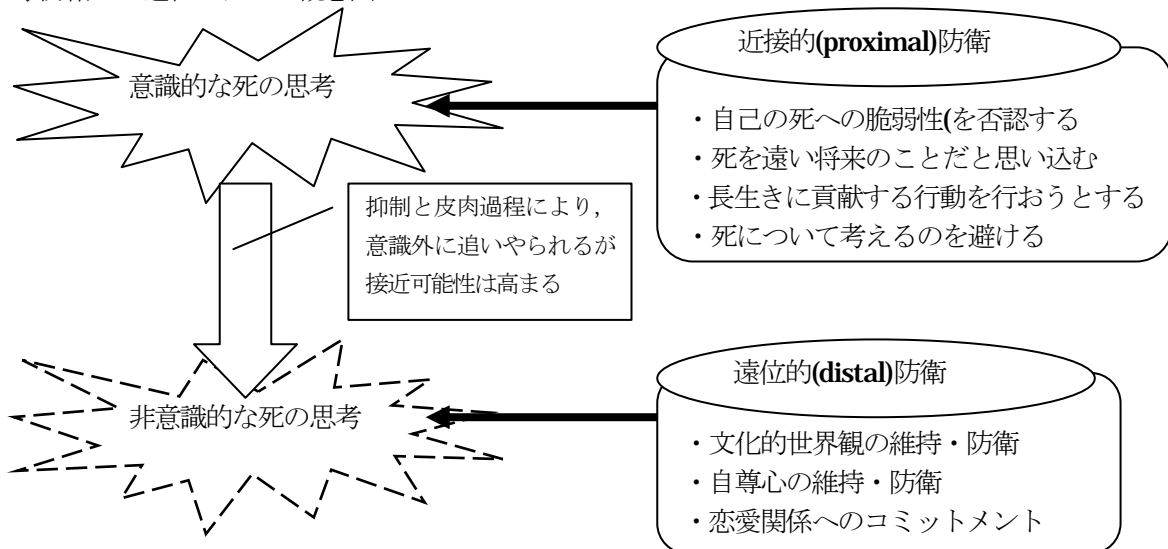
そのような非意識的な死の不安がいかんして様々な態度や行動に影響を及ぼすのだろうか?

2.A Dual Component Model of Defensive Responses to Conscious and Unconscious Threat

◇TMT に対する懐疑の 2 つの原因

- 人は一般的に, 死に関して考えていることに気づいていないと言う事実
- 死の思考がいかんして, それとは関係ない判断や行動に影響するかを考えることの困難さ
 - ← 無意識の影響については証拠が蓄積されつつある (**Bargh, 1996; Greenwald et al., 2002**)
- …TMT およびその関連研究では, 影響がある, というだけではなく, 一見意味的に無関連な無意識的思考と意識的思考・行動につながりを仮定することによって, さらに理解を進めようとする
 - 提出されたのが防衛の二過程モデル (**Pyszczynski et al., 1999**)

◇防衛の二過程モデルの概念図



*近接的防衛では, 死の不安を先延ばしすることはできても, 死の不可避性という根本的な問題は解決しない

*遠位的防衛では, 目前にある死の不安に対して対処することができない.

ex. 人間ドッグで再検査になった人が, 自尊心を高めても健康への不安が払拭されるわけではない.

→近接・遠位両方の防衛が必要.

2-1. Empirical evidence

◇二過程モデルを支持する知見

- ・強いMS処理よりも弱いMS処理のほうが文化・自尊心関連反応に対する効果が強い(Greenberg et al.,1994)
- ・従属変数測定前に死から注意を逸らしていた被験者ではMS処理の効果が見られるが,死について考え続けた被験者では効果が見られない(Greenberg et al.,1994)
- ・文化的世界観の防衛反応はMS処理と妨害課題の後に生じるが,脆弱性の否認傾向はMS処理の直後にのみ生じる(Greenberg et al.,2000)
- ・死関連語の接近可能性はMS処理直後には高まらず,死から注意をそらした後に生じる(Greenberg et al.,1994)
 - …しかし,認知的負荷をかけられた被験者は,MS処理直後に死関連語の接近可能性の高まりを示す(Arndt et al.,1997)→意識的な死の思考に対して積極的抑制がなされていることを示
- ・闕上のMS処理(質問紙や自由記述)では遅延課題の後に文化的世界観の防衛反応が示されるが,闕下のMS処理ではその直後に防衛反応が示される(Arndt et al.,1997)
- ・MS処理後の死関連語の接近可能性の高まりは,文化的世界観の防衛が行われると基準値まで戻る(Arndt et al.,1997)
- ・文化的世界観の防衛は,抑制を繰り返しているのではなく,接近可能性を低下させている(Greenberg et al.,2001)
- ・被験者が経験的情報処理様式³をとる場合には,遅延後に死関連語の接近可能性が高まるが,論理的情報処理様式をとる場合には高まらない(Simon et al.,1997)
- ・MS処理は直後に身体的健康を改善しようという意図を高める.一方,遅延後には身体的健康を自尊心の基盤としている人でのみ意図の高まりが見られる(Arndt et al.,2003)
 - 前者は近接的防衛,後者は象徴的防衛として捉えることができる.

◇これら研究は,近接的防衛が意識的な死の思考に対して,遠位的防衛が抑制された非意識的な死の思考に対して行われるという二過程モデルの主張を支持.

2-2. The role of affect in terror management processes

◇TMTに基づく研究では一貫して示されているが,一般から見れば驚くべき知見

- ・MS処理は感情,主観的不安,生理的覚醒を引き起こさない
- ・ごく少数の研究で感情に対して効果が見られる場合があるが,感情や覚醒の媒介効果は見出されていない(Arndt et al.,2001;Greenberg et al.,1997;Pyszczynski et al.,1999)

→

Muraven & Baumeister(1997)の批判

“Where is the terror?”

◇TMTの初期の主張(Solomon et al.,1991)

- ・文化的世界観への傾倒および自尊心獲得・防衛を動機付けるのは意識的に経験された感情ではなく,死の知覚がもたらす“圧倒的な恐怖を経験する可能性”(potential for paralyzing terror)
 - “terror”という語を用いたのは,文化的価値観や自尊心が「機能不全である場合に」経験されるであろう感情的経験の強さを表現するために用いた言葉
 - 死に関連する刺激は,不安を経験する“可能性”を示す.人は(実際に経験する前に)文化や自

³ CEST(Epstein, 1994)の概念.

自尊心、関係性によってそれらを回避する

→cf 動物のよく学習された回避反応と同様、実際に脅威を経験する前に反応が生じる

→この感情経験の可能性は、Greenwald らが検討している潜在的態度といくつかの点で類似しており、潜在的感情(implicit affect)と呼ぶことができる。

→感情経験の可能性がない場合には、防衛反応は生じる必要がないと考えられる。

➤Greenberg et al.(2003)

- ・“不安を一時的に経験しなくなる”という教示でハーブティー⁴を飲ませた群では、MS 処理によって文化的世界観の防衛反応が生じない
- ・同じハーブティーを“一時的に記憶成績が良くなる”という教示で飲ませた群では、先行研究通り MS 処理により文化的世界観の防衛反応が生じる
- 防衛反応を生ぜしめるのは主観的感情経験ではなく、感情経験の可能性であるという主張を支持
- 覚醒の誤帰属の研究知見と一貫。

3.The Activation of Worldview Defense

◇個人が持つ文化的世界観は多面的。また、自尊心を獲得するために用いる基準も多様

→

- ・意味と自己価値を確認する様々な方法のうち、どれが死の不安に対する防衛に用いられるのか？
- ・死関連思考の接近可能性は、どのように個人の存在脅威管理メカニズムの特定の側面を作働させるのか？

◇人は、発達過程において文化的世界観に従うことによって死の不安に対処することを学習
…中心となる価値観⁵が、MS 処理により一番早く活性化するのはではないか？

◇Arndt et al.(2002)…アメリカ人を対象とした研究

・研究 1

MS 処理は遅延課題を経た後に、男性においてのみ愛国心に関連した概念(国旗や国家)の接近可能性を高める

・研究 2

MS 処理は男性では愛国心関連概念を、女性では対人関係関連概念を活性化

・研究 3

女性の対人関係関連概念の活性化が、遅延課題の後に生じることを報告

・研究 4

閾下 MS 処理では、直後に男性の愛国心関連概念が活性化することを報告

・研究 5

女性の対人関係関連概念の活性化(研究 3 と異なる測度を使用)が、閾下 MS 処理の直後に生じることを報告

・研究 6

文化的世界観関連概念の活性化は、MS 処理直後ではなく遅延課題の後に生じることを報告

・研究 7

“アメリカ”を実験の最初にプライミングした場合には、女性は対人関係概念ではなく愛国心概念を活性化

⁴ 勿論プラシーボです。

⁵ 親が養育において特に重視する価値観、ということになるでしょうか。

- MS 処理によって最初に活性化する概念は性別(**gender**)によって系統的に違う
- ・ 遺伝的相関や性役割に関する社会化プロセスにより男性はナショナリズムに、女性は対人関係に注意を向けやすいという知見と整合(**Moskowitz et al.,1994; Norrander, 1999**)
- 防衛反応に性差がないという **TMT** に基づく先行研究と矛盾？
- ・ 今までの研究では、文化的世界観の特定の側面を顕現化させるような刺激と質問が使われてきた(**ex.被験者の所属文化を批判する外国人のエッセイ**)
 - ・ 一方、**Arndt** らの実験では、特定の側面を顕現化させるような尺度は使っていない

◇**Jonas et al.(2003)**

- ・ 特定の価値観(親切さや公正さ)を状況的にプライミングすると、**MS** 処理後のにそれらの価値観を支持するような反応が示されることを報告.

⇒**Arndt** らの知見と併せて、死関連思考と、文化的世界観の異なる側面に影響を及ぼす個人的・状況的要因を考慮することによって⁶, 可能な防衛の方向性から個人がどのようなものを選ぶのかをよりよく説明できるようになるだろう

4. Conclusion(略)

⁶ 実験社会心理学研究に投稿中の展望論文でこの点についてももう少しだけ詳しく論じてみました. **AASP@NZ** のシンポでも似たようなことを喋ってくるつもりです.